第１５回農業農村情報研究部会勉強会議事要旨(案)

日時： 平成１９年７月１３日（金）16:00-18:30
場所： 東大農学部7 号館A 棟7 階717 号室
出席者（順不同，敬称略）：大政謙次（東大）、溝口勝（東大）、大西亮一（日本水土総合研究所）、関勝寿（東大）、山中健一（日本気象協会）、伊藤良栄（三重大）、小川茂男（農工研）、小林和行（全国水土里ネット）、藤沢和也（松下電工）、石山斉（パスコ）、大羽泉（ARIC）、岡本佳久（ARIC）

１．報告事項

６月２１日の情報研究部会幹事会（第１回）で定められた、勉強会、企画セッション等に係る今後の運営体制について報告。

２．勉強会

(1) 農業水利ストック情報データベースシステムの構築（（社）農業農村整備情報総合センター　岡本佳久）

・農林水産省では、効率的な更新整備や保全管理を通じて、施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減を図るストックマネジメントの導入に努めている。
・ストックマネジメントを支援する情報ツールとして、平成16年度～18年度にかけて「農業水利ストック情報データベースシステム」をARICが農林水産省より受託し構築した。
・ＤＢには、施設基本情報、維持管理情報、補修履歴情報、機能診断情報が蓄積される。
・本勉強会で水利ストック情報データベースの概要を報告。

(2) 管理放棄された水利施設に対する地域の新たな取り組み
―情報発信に対する技術者の新たな役割―　（（財）日本水土総合研究所　大西亮一）

・新たな水源確保により、これまで利用してきた水路が必要ないとの判断から、従来の管理者が水路管理を放棄したため水路が荒れ、近隣へ越水による浸水被害等が発生した。
・このため、水利用の経緯、地域に果たす役割等を調査・整理し、関係者間の調整を図った。
・これにより、関係者間の協力関係を構築し、管理放棄された水路の改修を進めるとともに、地域として管理に取り組むといった新たな取り組みを導くことが出来た。
・本勉強会で、上記内容に付き、農業水利施設の多面的機能の発揮の１事例として報告。